

深川のうなぎ



食文化史研究家 飯野 亮一

深川はうなぎの名産地だった。元禄時代に出版された『ほんちようしよつかん本朝食鑑』(元禄10年・1697)には「深川の産は、大きくもなく小さくもなく、二・三尺余のものが上とされる」と紹介されている。名産のうなぎを蒲焼にして売る店も早くから生まれていて、近藤清春の『江戸名所百人一首』(享保16年〈1731〉頃)には、深川八幡宮の門前で「上々もろはく めいぶつ 大かばやき」の看板を掲げたうなぎ屋が描かれている。「上々もろはく」とは上質の下り酒のことで、客は床几しょうぎに腰かけて酒を飲みながら蒲焼を食べている。

その後も、『江戸惣鹿子名所大全』(寛延4年・1751)に「深川鰻 名産也。八幡宮門前の町にて多く売る」とあるように、名産の深川うなぎを売る店が深川八幡宮の門前に何軒も現れているが、さらに深川うなぎは江戸前うなぎとして評価を高めていった。

「江戸前」という言葉は、『江戸名所百人一首』のうなぎ屋が「大かばやき」の看板を掲げて蒲焼を売っていたころに使われ出し、江戸の地誌『続江戸砂子』(享保20年・1735)「江府名産」に「江戸前鰻、中ぶくらと云。随一の名産地。惣じて鯛、平目にかぎらず、江戸前にて漁を、前の魚と称して、諸魚共に佳品也」とでている。

このように江戸前とは江戸城前面の海や川でとれる美味な魚類を指すことばとして使われ出したが、うなぎ屋はうなぎを江戸前の名物に仕立て上げ、江戸前大蒲焼を看板にして蒲焼を売ることをはじめた。今ではすし屋が「江戸前」を看板にしているが、江戸時代はうなぎ屋が「江戸前」を看板にし、江戸前でいううなぎは旅うなぎとして差別化し、江戸前うなぎをブランド化していった。なかでも浅草川(隅田川の吾妻橋から下流の別称)や深川で獲れるうなぎがブランド品としてもてはやされ、全国の方言辞典『物類称呼』(安永4年・1775)には「江戸にては浅草川・深川辺の産を江戸前とよびて賞す」とある。

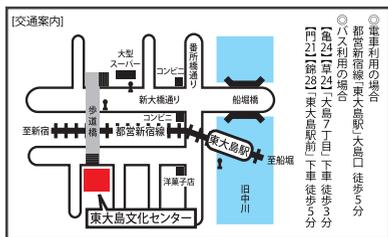
深川うなぎはブランドうなぎとして定着していき、『本草綱目啓蒙』(享和3~文化3年・1803~1806)には「江戸ニテハ浅草川・深川辺ノ産ヲ江戸前ト称シテ上品トシ、他所ヨリ出タルヲタビウナギト称シテ下品トス」とある。江戸時代、深川では地元産の上品なうなぎの蒲焼が食べられた。



深川八幡前の蒲焼屋の絵。箱看板に「上々もろはく めいぶつ 大かばやき」と書かれている。「江戸名所百人一首」より。

公益財団法人
江東区文化コミュニティ財団
東大島文化センター
TEL. 03-3681-6331
FAX. 03-3636-5825

〒136-0072 江東区大島 8-33-9 (地図参照)
休館日: 第1・3月曜日、ただし国民の祝日にあたる場合を除く



東大島文化センター ニュース

index

- 1 江東囲碁大会
- 2 秋のおススメ講座・リニューアルオープン作品展
- 3 ぶらり小名木川・第6研修室から奏でるMyコンサート
- 4 コラム「江戸時代の食と人々」

東大島に
戻って
きました

江東囲碁大会

今年も「江東囲碁大会」を開催します。各クラスの優勝・2位・3位のチーム・入賞者には賞状および盾を贈呈します。

団体戦、個人戦のお申込みをお待ちしています。ルール等詳細につきましては、チラシ、ホームページをご覧ください。



審判長 日本棋院棋士九段 加藤充志



1チーム3名。
勝敗に係わらず3局
対戦できるチーム。

団体戦

参加費
【団体戦】大人チーム 3,600円
こどもチーム(中学生以下) 1,800円
【個人戦】大人 1,200円 こども(中学生以下) 600円

勝敗に係わらず
4局対戦できる方。
名人クラス【締切】・
棋力別クラス・
シニアクラス
(75歳以上・三段~5級)



個人戦

※昼食を希望の方は別途550円(お茶付)が必要です。

東大島文化センター秋のおススメ講座

年号＝元号のナゾとき

「平成」が終わり、新しい元号の時代がまもなく始まろうとしています。ところで「元号」って一体何なのでしょう？現代では日本独特の制度になった元号。本講座では元号とは何かということ、元号を決定する方法、新しい元号などをテーマに、今まで気にならなかった元号にスポットを当て、解き明かしていきます。

【プログラム】

- 日時：右記参照（全4回）14:00～15:30
 - 対象：25名 ●受講料・教材費：3,600円・200円
 - 講師：所功（モラロジー研究所教授）ほか
- | |
|---------------------|
| 11/12（月）年号（元号）とは何か |
| 11/26（月）なぜ改元するのか |
| 12/10（月）どのように改元するのか |
| 1/28（月）新元号はどうなるのか |

メンズストレッチ

～男性バレエダンサーに学ぶ筋力UP・美姿勢～

バレエダンサーを指導する監督や現役のダンサーからバレエ独自のストレッチや筋力UPの方法を学び、健康で美しい姿勢や体型を目指します。日常生活にバレエのエッセンスを取り入れていく男性限定の講座です。※バレエシューズ（上履き）は各自でご用意ください。

- 日時：11/4～2/10（日曜・全7回）10:30～12:00
- 対象：20名 ●受講料・教材費：6,800円・350円（保険代）
- 講師：中島伸欣（公益財団法人東京シティ・バレエ団理事／監督）ほか

- 【主な内容】 ●ストレッチ、筋力UP、美しい姿勢の保ち方
●日々の生活の中で意識するポイント



美しい姿勢を目指しましょう

リニューアルオープン作品展 ～自主・利用グループ～

東大島文化センターを活動の場としているグループの方々の作品展です。どうぞお楽しみに。

- 9/9（日）～9/15（土）アートフラワー「コスモスの会」／稲野辺俊子パンフラワー教室
- 9/16（日）～9/22（土）江戸の針 東大島教室
※最終日14:30まで
- 9/23（日）～9/29（土）鎌倉彫文月会／江東絵本同好会
- 9/30（日）～10/6（土）聖山会 東大島水墨画教室／韓紙工芸グループ
- 10/7（日）～10/13（土）写遊くらぶ（写真）
- 10/14（日）～10/20（土）東大島スケッチ教室／パステル画を描く
- 10/21（日）～10/27（土）絵の会「キャンパス」

入場無料
展示ロビー

※最終日15:00まで



小名木川リバーガイド倶楽部
会員 本澤 満

小名木川と私

私が卒業した元加賀小学校の校歌1番の歌詞に、「都の辰巳 大川近く 小名木亥の堀 交わるほとり♪……」とある。「小名木」が小名木川とはピンと来ず、「おなじ いもほり…」などとふざけたりしていた。お盆の送り火をしてキュウリやナスで作られた馬や牛を流していたところが大富橋のたもとで、その川こそが「小名木川」とは、よくわからなかった。子供のころの昭和30年代、40年代、今の木場公園のあたり一帯（三好町、平野町）は、貯木のための掘割だらけであり、小学生にとって夏場には絶好の遊び場にもなった。そんな環境であったから小名木川は川というより掘割の一部のように感じていたように思う。

小名木川リバーガイド倶楽部のことを知り、興味を持ち会員になった。そこではじめて資料などを読み小名木川の歴史などを学んだ。身近にあり歴史ある川でありながらほとんど何も知らなかった。小名木川リバーウオークのガイドをして今年2年目になる。まだ、歴史の学習をほとんど受けていない小学校3年生相手にどの程度の話をするか悩みながらガイドしている。とは言っても新人ガイドの私にはそんなに多くの知識はない。

小名木川の護岸の高さが昭和30年代、40年代にかけてどのように変わっていったかを倶楽部に入って改めて知った。大雨が降った後、浸水することがよくあった。「江東0メートル地帯」と言われていたのを思い出した。そんなことは、今の小学生にはピンとこないと思う。思えば木場が新木場に移り木場公園が出来たあたりから、江東区の雰囲気が変わったように思う。深川地区、城東地区に加えて湾岸地区が出来た。そんな時代の違いを話すのもガイドの一部だと思う。小名木川の歴史を語るとともに江東区の移り変わりを川の変遷を通して知らせることだと思う。知識の量はあまり多くはないが声の大きさには自信がある。そんな特技？を生かしてこれからもガイドをしていきたいと思う。小学生とともに私もこれから多くのことを学んでいきたい。

チケット販売中

第6 My 研修室から奏でる

ウクレレとハワイアンバンドが

My コンサート 第1回 繰り広げるミニコンサート

～童謡・唱歌の世界～

東大島文化センターの第6研修室で気軽にご覧いただけるコンサートです。プロ・アマチュアを問わず、さまざまな出演者が奏でる音楽をお楽しみください。今回は、児童文芸誌「赤い鳥」の発行100年にちなみ、童謡や唱歌をウクレレのハワイアンバンドが演奏します。こどもに贈りたい優しく懐かしいメロディーをどうぞ。

日時：10月27日（土）
開演：14:00（開場13:30）
料金：一般1,000円、小中学生300円（未就学児無料）
出演：歌のおねえさん
バンドの演奏：日本ウクレレ協会有志
申込：東大島文化センター 03-3681-6331